

# 探究通信

2018 (第2号)  
富山県立高岡高等学校

2018年8月発行  
編集 探究科学委員

## 「グローバル」に関する意識調査 結果報告!

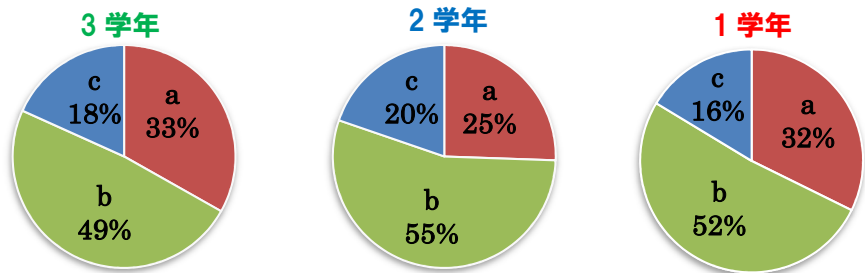
今年6月に全校生徒対象に行った「グローバル」に関するアンケートの集計結果を報告します。アンケート回答数は1年262、2年246、3年227、計735でした。この調査は、本校がSGHの指定を受けた2014年に実施したアンケート調査と同じ内容のものです。一部、比較をしながら分析しました。

### Q1.グローバルという言葉から何を連想しますか?

寄せられた様々な回答のうち、主なものを分類してみました。単なる言葉の連想(①)もありますが、「政治・経済のグローバル化」(②)や「世界規模での情報網の発達」(③)、国際的な活動や団体(④)のほか、タカ高生ならではの連想(⑤)もありました。ポジティブイメージ(⑥)が多い中、ネガティブなもの(⑦)もありました。

- ① 世界、地球、世界地図、国際社会、外国、英語、様々な言語
- ② 政治、貿易、多国籍企業、外資系企業、商社
- ③ ネットワーク、インターネット、GPS、科学技術、伝達手段の発展
- ④ 国連、国際事業、青年海外協力隊、国境なき医師団、JICA、グーグル、ワールドカップ、オリンピック、国際会議、
- ⑤ 留学、グローバルチャレンジ、高岡高校、SGH
- ⑥ クール、視野が広い、平和、世界での活躍、多国間の話し合い、国を超えた理解や交流、世界全体が団結して問題やこれからの指針について考えてより良くしていくこと
- ⑦ 地球温暖化、世界の画一化

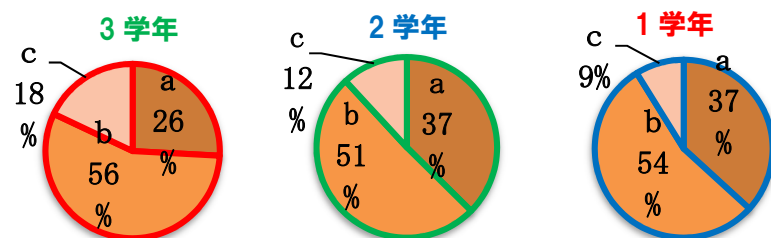
### Q2.国際的な人間になりたいですか? (a 是非なりたい b できるならなりたい c なりたいと思わない) 《学年比較(2018)》



#### 《男女比較》

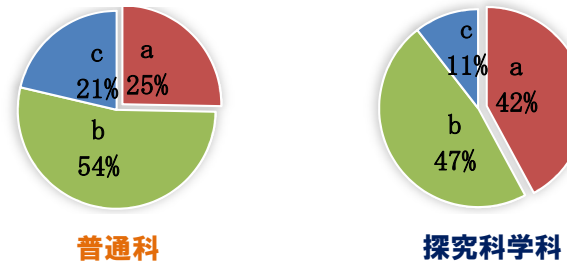
男子 a 27%  
b 53%  
c 20%  
女子 a 35%  
b 49%  
c 16%

[参考:2014年]



「是非なりたい」の割合は、1、2年は、2014年に比べて、低下している。3年は全学年の中で最も高く、2014年に比べても高くなっている。男女の比較では、女子の割合が高い。

### 《普通科・探究科学科比較(2018)》



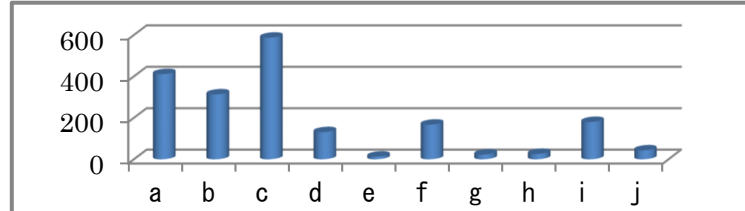
探究科学科の生徒のほうが、普通科の生徒に比べて、「是非なりたい」の割合が圧倒的に高い。「できればなりたい」も合わせると、探究科学科の生徒の約9割が、国際的な人間になりたいと回答している。

### Q3.「グローバル人材」とはどのような人材のことをいいますか?

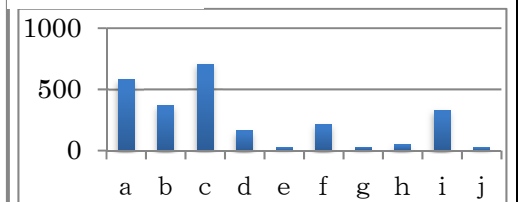
Q1同様、様々な回答が寄せられました。主なものを次のように分類してみました。

- (ア) <世界で活躍する人・国同士を結びつける人> 世界規模で働く、世界に影響を与えられる、国連やユネスコで活躍する、世界に必要とされる技術を持つ、自分の国を背負って世界で活躍したり国同士の結びつきを強めるような仕事をしたりする
- (イ) <日本を発信する人> 外国で自国についての的確に伝えられる、日本にいても世界と関わる
- (ウ) <異文化理解ができる人> 多様な文化や考えを理解でき世界単位で物事を考える、国際的・文化的な違いや考え方に理解があり世界平和や貧困の改善に協力的である、世界の様々な人と共生できる
- (エ) <その他、〇〇な人> 積極的に物事に取り組む、複数の言語を使う、大勢の前で堂々と話せる、ディスカッションができる、幅広い・高い目標を持つ、思考力豊かで柔軟、物事を批判的に捉えられる

### Q4.国際的に活躍するには何が必要だと思いますか?



[参考:2014年]



- a: 英語力 b: 適応力 c: コミュニケーション能力  
d: リーダーシップ e: 学歴 f: 勇気 g: 経済力 h: 生活力  
i: 自己アピール力 j: その他(余裕、愛、笑顔、カリスマ性 等)

2018年・2014年で、ほぼ同じ傾向となった。コミュニケーション能力、英語力、適応力がトップ3。

### Q5.国際的に活躍する日本人を挙げてください。

1位 安倍晋三(116票) 2位 本田圭佑(77票) 3位 イチロー(58票)

### Q6.国際的に活躍する日本人以外の人物を挙げてください。

1位 トランプ(134票) 2位 スティーブ・ジョブズ(56票) 3位 オバマ(44票)

[参考:2014年]

- Q5 1. 安倍晋三  
2. イチロー  
3. 本田圭佑・緒方貞子  
Q6 1. オバマ  
2. スティーブ・ジョブズ  
3. マザー・テレサ

### 《考察》

「グローバル」に関する意識は、2018年と2014年とでは大きな変化は見られないということが確認できた。また、「グローバル」や「グローバル人材」について、多様なイメージを抱いていることもわかった。8割の人が国際的な人間になりたいと回答しており、今後、多くのタカ高生が、世界を舞台に活躍するだろう。

～編集後記～ 集計頑張りました。(I) グローバルの条件とは?(N) 少しでもいいので読んでください。(T) 集計の一部と編集を担当しました。探究委員、地道にがんばっています。(I) アンケートの編集は大変でしたが、とても達成感がありました。(S) 集計がスムーズになるように頑張りました。やりがいを感じられる仕事だったと思います。(F) グローバルに関してのいろんな人の考えが知れたので面白かったです。(T) 頑張って集計したので読んでください!!!! (N)